

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0572609238		
法人名	有限会社 若竹		
事業所名	グループホーム やすらぎの家		
所在地	秋田県仙北郡美郷町畑屋字狐塚213-1		
自己評価作成日	平成25年 6月 21日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.akita-longlife.net/evaluation/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 秋田マイケアプラン研究会		
所在地	秋田県秋田市下北手松崎字前谷地142-1		
訪問調査日	平成25年 7月 29日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・帰宅欲求の強い方に対してはこちらから自宅に行く機会を設け、一緒に農作業をする等して、ご自宅とホームでのバランスを取り、安心してホームで生活していただけるように取り組んでいる。
 ・毎月のホームのお便りの他に、個々の様子をまとめた写真や看護師からの健康情報、担当職員からの直筆の手紙等もご家族様に送付している。また、希望があれば、ご本人とご家族さまの許可のもと、ご兄弟や親類、友人の方へもお便りと写真を送付している。
 ・社内に各種委員会を設け、毎月1回全職員が参加しての合同会議を開催している。その会議の場で外部研修の報告も行なっており、全職員が情報を共有し、スキルアップとご利用者様へのケアに繋げられる体制をとっている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

積極的な地域の協力がみられ、家族の協力も得ながら利用者がホームで安心して暮らせるよう支援されています。また、利用者の機能が低下してきている中で、より良いケアの実践のために話し合いの機会を多く設け、サービス提供に活かされています。居間では、利用者と職員の笑いながら楽しそうに会話する様子がみられました。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者も職員も「ひとりひとりが笑顔の一日」であるようにとの思いで、職員一同理念の実践に向けて取り組んでいる。	利用者のみならず、地域の方々にも笑顔で対応できるようにと、職員全員で話し合って決めた理念を意識し、日々のケアに活かせるように取り組まれています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会には開設時、ホームからは参加したいとの意思を示したが、集落の一部の方の同意が得られず未だ、見送られている。しかし、避難訓練等には地元の消防団をはじめ、近隣の方々の参加も得られている。	地域住民を招いてホームの行事を開催したり、漬物や野菜をいただいて一緒にお茶を飲んでいかれたりと日常の交流があり、近隣の理解と協力は得られています。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	以前は職員が認知症サポーターとして地域の方々へ認知症の講習会を開催していたが、去年は半数以上の職員の入れ代わりがあり、実施できていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事例検討などを行ない、認知症ケアに関する理解や知識を地域住民に伝える努力を続けていて、頂いた意見をサービス向上に役立てている。	毎回テーマに応じて意見交換され、提案も多く、運営に活かされています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に出席していただいたり、それ以外でも不明な点がある場合に連絡を取り合い、意見を頂く等して取り組んでいる。	積極的に連携して情報を共有し、利用者の支援をされています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	社内に身体拘束委員会を設け、月1回の合同研修時に職員がケアについて確認しあいて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	隣接施設と合同で研修されており、事例等で確認しながら拘束のないケアに取り組まれています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている	社内に虐待対策委員会を設け、月1回の合同研修時に職員がケアについて確認している。また虐待対策委員会からの講習も開催しており、虐待防止に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	地域福祉権利擁護事業を利用されている方がおり、実際に関わり合いながら学ぶ機会を持っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約については重要事項説明書、契約書をもとに十分な説明を行ない、利用者様、ご家族様に誤解のない様に理解、納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に出席して頂いたり、利用者様が意見を素直に表せる環境づくりに努めている。ご家族様の意見は来所時にお伺いしている。事情があり、面会が出来ないご家族様には電話等でお伺いする機会を設けている。	利用者とは日常の関わりの中から、家族からは支払いに訪れた時等を利用してお話しできる機会をつくり、思いや意見の把握に努めています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的な会議やミーティングの他にも意見交換により、意見を反映させている。	法人の全体会議には職員が全員出席して開催され、週1回のミーティングの他、日常的に利用者の対応について話し合いをされており、サービスの向上に繋げています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	処遇改善加算金の支給に伴い、毎月個々で1ヶ月間の自己評価及び来月の目標を立て各自が向上心を持って取り組める様努めている。又、資格取得も積極的に勧めしており、その為の支援も行なっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、代表者自身や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修の他に外部の研修への参加も積極的に勧めている。参加後はレポート提出をし、合同研修で発表する場を設け、他の職員にも周知し知識、技術の共有を図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修等を通じて、地域の同業者と交流する機会を持ち、サービスの質の向上に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前のアセスメントにより、ご本人からよく聴く機会をつくり情報を入手し、サービスを導入する段階から安心して利用して頂ける為の関係づくりにつとめている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様のご要望、不安に感じていること等を初期の段階で十分に受け止め、信頼関係の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている ※小規模多機能型居宅介護限定項目とする			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	親であったり、時には兄弟であったりと家庭的な関係を築き、ホームの理念である「ひとりひとりが笑顔の一日」であるようにとの思いで関係の構築に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様との情報交換を大切にしており、また定期的な外食や散髪等の協力を頂きながら、共にご本人を支えていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	兄弟、親類、近所の方が気軽に来所できる環境にある。また馴染みの理髪店に行くなど、これまでの関係が途切れないように支援している。	理髪店や病院で知り合いに逢えることを楽しみにされている利用者等、家族や行政の協力も得て生活習慣を尊重し、馴染みの関係を継続しながら、ホームで安心して暮らせるように支援されています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士で居室を行き来したり、お菓子などを差し入れされたりと関係が構築されている方もいる。それ以外でも職員が会話の橋渡しや間を取り持つことで、互いに良い関係を保てる様に支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	隣接する施設に入所された方がおり、隣の施設に行く度に職員が声をかけるなどしている。又、面会に来られたご家族様ともその後の様子をお伺いするなどしてこれまでの関係性を大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の行動や日常の何気ない会話の中から、ご本人の思いや意見をくみ取っている。困難な場合にはご家族様と話し合い、本人本位に検討している。	表情や会話の中から思いを汲み取るようにしています。記録の仕方を工夫して情報を共有し、アセスメントに活かしています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時の情報だけでなく、その後の会話などを通じてこれまでの暮らしを把握するように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入所時の情報だけでなく、申し送りや介護記録、ケア会議、アセスメント等を通じて一人ひとりの現状を把握するように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプラン更新の際にサービス担当者会議を開催し、ご本人やご家族様の意見を取り入れている。また担当職員だけでなく職員全体で意見を出し合い、ご本人に合った介護計画を作成している。	3ヶ月毎の見直しを基本としていますが、日々の記録を基に毎週のケア会議でカンファレンスが行われ、全職員で現状を確認しながら計画の見直しに繋がっています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は介護計画に沿って介護記録に記入し、実施できているのか又は実施できていないのかも記入している。それ以外でも変化や気づきがあった場合は申し送りノートを活用し情報を共有し、実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる ※小規模多機能型居宅介護限定項目とする			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	避難訓練の際、消防署や消防団と連携を取ったり、往診時にはかかりつけ医と相談しながら本人を支援する体制が整っている。		
30	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療関係の他、入所前からかかっていた医療機関への通院介助を行っており、ご本人及びご家族様の希望に沿った適切な医療が受けられるように支援している。	医科、歯科の往診が行われている他、眼科、内科等、利用者、家族の希望する医療機関で職員介助によって受診されています。また、看護師が毎月健康情報を家族に報告されています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員間での気付きや変化を、看護師に伝え指示を仰ぎ、適切な受診や看護を受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には医療機関、ご家族様との情報交換を密にして、入院前の状態を医療機関に情報提供するなど努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取り介護加算を取っていないが、状態に変化があった場合は本人、ご家族様と話し合い、今後の方針を共有する体制をとっている。	状況に応じてその都度家族と話し合い、家族の協力の下、これまで3例の実績があります。職員も対応手順を周知し、関係者と連携して支援できるよう取り組まれています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員が、普通救命講習を受講しており、急変や事故発生時に対応できるように取り組んでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	利用者様を交え、消防署と地域の消防団、近隣の方々の協力を得て避難訓練を実施している。	夜間に実施したこともあり、地域の積極的な協力を得て、定期的に訓練されています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	以前のその方の職業や生活歴に配慮し、一人ひとりに合った言葉掛けやご本人を尊重した対応をし、誇りやプライバシーの確保に留意している。	利用者の誇りを損ねないように、その人に合った呼び方や声かけに気をつけて接し、時には、その場で注意して利用者を尊重した対応をすることを心がけています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	食事内容や入浴時間等、ご本人が希望を表せる環境である。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな一日の流れはあるものの、一人ひとりのペースや生活スタイルに合わせ、できるだけ希望に沿った一日が送れるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している ※認知症対応型共同生活介護限定項目とする	衣類の購入や散髪など、希望があった際には予定を組み、個々の要望に沿えるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューによって、ご自分で調理する機会を作ったり、好き嫌いがある方には別メニューで対応するなど、食事を楽しむことのできる様支援している。また利用者様の力に合わせて配膳、片付け等をしていただいている。	ホームで食べる野菜を利用者が育て、力を活かして楽しみに繋げています。利用者の状態によってはキザミ、とろみ食を提供し、職員の見守り、介助によって食事をされています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食の食事摂取量や一日の水分摂取量が職員全員が把握出来る様に記入し管理している。摂取量が極端に少ない方には、10時、15時の水補時に捕食で対応するなど支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者様の個々の生活習慣にも配慮しながら、一人ひとりに応じた口腔ケアの支援を行なっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を利用し、オムツや尿取りパットを使用している方の排泄誘導を定期的に行ない、排泄の失敗やおムツの使用を減らすなどの、排泄の自立に向けた支援を行なっている。	チェック表を活用し、介助の必要な利用者には定期的に誘導する等、機能に応じた支援を行い、トイレで排泄されています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日ラジオ体操を実施したり、牛乳の摂取、繊維質の食材を食事に取り入れる等、便秘予防に取り組んでいる。また、個々に応じて自室の清掃やゴミ出し、また風船バレー等体を使ったレクレーションを取り入れる等し、運動量を増やす働き掛けも行なっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	他の業務と重ならないように曜日は決めてはいるが、一人ひとりの体力や、健康状態、好みの時間等に合わせる等、個々の希望に沿った支援をしている。	入浴を希望しない利用者が多くなってきているものの、状況に合わせて週2回は入浴できるように支援されています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣や状況に応じて、ホールで休んで頂いたり、居室に誘導したりと個々に合わせた対応をし、安心して気持ちよく眠れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	現在服用されている薬や、変更になった場合等にも看護師から目的、副作用、用法等を職員全員に周知し共有できる形をとり、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの力にあった役割(ゴミ捨て、食器拭き、熱帯魚のエサやり、居室掃除、カレンダーの日めくり等)を無理のない範囲で行なっている。また、嗜好品は健康に留意しながら、個々の希望に沿えるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している ※認知症対応型共同生活介護限定項目とする	散歩を日課とされている方もおり、ご本人の希望される時間に出掛けられるように支援している。また、自宅で農作業を希望されている方には、職員が同行したり、ご家族様と定期的に外食されている方もおり、家族や地域の人々と協力しながらでかけられるように支援している。	自宅での畑作業の際には他の利用者も同行し、定期受診の際に知人に逢ったり、隣接施設との往来もされて、一人ひとりの習慣や楽しみに合わせて支援されています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を自己管理されている方もおり、受診時などにご自身で買物できる様に支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人が電話をしたり、ホームに電話をいただいたりやり取りができる様に支援している。また、個々の能力に応じて手紙や年賀状などのやり取り等も継続できる様に支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様にとって不快感がないように、朝の掃除以外にも定期的に掃除を行ない、環境美化に努めている。また、季節に合った貼り絵を毎月利用者様と制作し、ホールや廊下に展示する等、居心地のよい共有空間づくりに努めている。	利用者が思い思いに過ごせるよう、椅子やソファの配置に配慮されています。建物内は採光が良く、明るい感じの造りとなっています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている ※認知症対応型共同生活介護限定項目とする	ホールでは自席以外にもソファを設置し、利用者様が思い思いに過ごせる様に支援している。また、ホール入口や玄関に椅子を置くなどして、外を眺め季節感を感じて頂ける様な居場所づくりに努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族様と相談しながら、ご本人が使い慣れた家具、寝具などを用いている。また、全居室に湿温度計を設置し、空調管理をし居心地よく過ごせるように努めている。	使い慣れた馴染みの物を持ち込み、利用者が安全に過ごせる工夫をされています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下、トイレ、浴室には手すりが備わっている。また、トイレや浴室、居室が特定できりように貼り紙をし、自立した生活が送れるよう支援している。		